

教えて!

市立病院



〈今月のドクター〉

産婦人科
たちばなゆか
立花由花 医師

当院では2020年1月から麻酔科医師の協力のもと、無痛分娩を行っています。

無痛分娩は、硬膜外麻酔という背中から細い管を入れ薬を投与する方法を用いて、お産の痛みを緩

〈第92回〉

麻酔科医師と協力し無痛分娩を行っています

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

和します。完全に痛みをゼロにするといきみにくくなるため、痛みのピークを10とした際の0～3程度を目標に行っています。

痛みを緩和することでリラックスしたお産が可能で、産後の回復も早まると言われています。デメリットとしては分娩時間が長くなること、陣痛促進剤の使用や器械分娩が増えることが挙げられます。

局所麻酔中毒などの重篤な合併症も0.001%の確率で起こるとされていますが、当院では麻酔管理に長けた麻酔科医師が痛みの管理

をしており、開始から一年経過した現在、重篤な合併症はありませんでした。

また、赤ちゃんへ薬剤が移行する量はごく少量で、影響はほぼありません。赤ちゃんへの愛着形成や母乳育児に関しても、麻酔を使用しない分娩と比べて大きな差はないとされています。夜間など一部対応できないこともありますが、多くの人に利用されました。

麻酔を使用する無痛分娩も、しない分娩も、利点欠点があります。ご自身のバースプランに合わせてご検討いただければと思います。